

成溪會誌

1994.7 No.79



就任

工学部長に就任して	栗田 恵輔	2
中学・高等学校長に就任して	小宮山則信	3
小学校長に就任して	高柴 光男	4

特別寄稿

昨今の危機管理について	佐々 淳行	5
歯の役割	磯部 茂	12
暮らしと水	柏谷 光昭	17

随想

新日本地名索引のはなし	金井 弘夫	21
どろまみれの完走	井川 舜喬	22
オランダの雲	佐佐木幸綱	24
再就職支援の実際	塩川 昌興	26
カプリッチョ三昧	名越吉太郎	27

この人に聞く

読売ヴェルディ川崎DF	中村 忠	29
芥川賞作家	吉目木晴彦	30

同窓のつどい

● 桜祭に集いて	小野明先生を囲む会	浅野先生を囲む会	32
	吉崎先生クラス会	藤井先生クラス会	
	新井ゼミ	船越学級	藤浦会
	みちしば／あかまんまクラス会	安藤ゼミ	
● 学校年次会のつどい	やよい会親睦会	大学卒業30周年	37
	高校卒業40周年	高校卒業35周年	一蹊会
● 体育会・文化会OB会	準硬式野球部OB総会	蹊声会箱根合宿	40
● 業界・企業同窓会	観光成蹊会	成蹊医会・プレメ同窓会総会	41
	東銀成蹊会		
● 地域同窓会	北海道支部	新潟成蹊会	42
	長野県成蹊会	愛知成蹊会	
	関西歌祭	讃岐成蹊会	
	九州支部総会	大分成蹊会	
		北九州・山口成蹊会	
		熊本成蹊会	

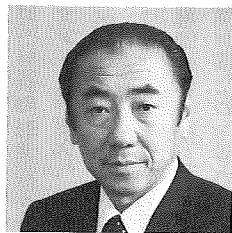
旧制高校白線クラブ／47	第17回枯林忌／47
アメリカン・フットボール部一部昇格／47	学園退職挨拶／48
平成5年度成蹊会事業報告／50	学術・教育助成研究報告／51
成蹊学園の近況／56	学園史料館資料紹介／62
図書館蔵書案内／64	アジア太平洋研究センター／65
平成5年度寄付金芳名録／66	成蹊会報告／68
叙勲／68	物故会員／39
	予告／16
	表紙のごとば／68

表紙の題字は上條信山先生、絵は宮道弓子(高34年)

「昨今の危機管理

について」(要旨)

佐々淳行



きょうは、せっかくの機会でございますので、世の中一体どうなっているのかということについて、いま私の知り得ている限りのデータで生のお話をしてみたいと思います。

価値感の崩壊

私は昭和二十年八月十五日の終戦のとき十五歳でございました。二十三回生は大体昭和五年代でございますが、あのときの価値観の崩壊というか、価値革命というのか、少年にとって大変大きなショックでした。使うことを禁じられておりました言葉をいまあえて使わせていただきますと、ゲマインシャフト、運命共同体、民族共同体思想、八紘一宇、あるいは一億一心とか、確立された天皇制、家族制度、皇国史観、こういうものの中で育った我々にとって敗戦というのは大変ショックだった

わけです。

それまで、ドイツ観念論哲学の影響を濃厚に受けており、政治指導者というのはいーバメンシュ(超人)でなきゃいけない、そういう価値観で生きてきたのが否定された。一体何を信じたらいいのだろうかというのが、昭和二十年の少年たちの迷いであつたと思えます。

それが崩壊した後、とつてかわつたのがマルクス・レーニン主義、政治制度としてはソ連邦、共産主義、全体主義体制。経済としてはマルクス経済。史観としてはエスカトロジー(終末論)の一つの唯物史観でした。目的達成のためのあらゆる行為は、目的は手段を正当化するから、火炎びんを投げようが、テロリズムに走ろうが、暴動を起こそうが、正当化される。これを

阻もうとするものは反動である。マルクス・レーニン主義の歴史的生命体であるところの、ソビエトによるパックス・ソビエティカが実現したとき、人類に永遠の平和と至福が訪れると説くのであります。

労働価値説でございますし、所得の配分の問題、モノ、おカネ、こういう価値観であつたと思います。そして、皇国史観的なゲマインシャフトというのは完全に否定されました。権利と権限の主張が義務と責任を上回る体制。これでマルクス・レーニン主義が勝つのか、それとも、その対峙概念である自由民主主義——多数決原理、こういうもので運営される政治が勝つのかという、二者択一を迫られたのが戦後の歴史だと思えます。

資本主義的な自由主義経済の根幹を貫いておりますのは、利潤追求のゲゼルシャフト精神であつたと言つて間違いないと思えます。利益共同体社会。大学教育において、インテリのはほとんどが唯物史観、マルクス・レーニン主義の教育を受け、経済学を学んだ人たちが実社会に出て近代経済をやつて、今日の日本をつくつたという大変な皮肉があるわけです。

私、いまでも忘れませんが、東大で

学生運動をやつていた中の一人が、一流企業に就職したときに涙を流しながらやつた訣別のあいさつを、非常な憤激と滑稽感を持つて聞いてました。これからわれは諸君と別れて心ならずも就職する。〇〇という会社に行く。

「身は資本主義の汚辱の中へ、心はコミニズムとともに」といつて泣いたんですよ。(笑) 心が資本主義の汚辱の中で、身はまだサロンコミュニケーションじゃないのかと、こういうことを言つて物すごく憎まれたことがあるんです。そういうことで、みんな、精神分離、精神分裂、心身の乖離ということをやつて、資本主義社会に入つていつたという不思議な時代だったわけです。

私は皇国史観のゲマインシャフトというのはいくら何でもついていけません。

プラグマティズム

そこで何か価値観を探そうと思ひ、当時、探り求めたのがプラグマティズムだったんです。あんなに強いはずだったドイツ、我々が信奉していたドイツがもうくも崩壊した。日本のゲマインシャフトもたたきつぶされてしまつた。これに勝つたアングロサクソンというのはい体何なんだろう。我々の聞いていたアメリカ人というのは、物質

じょうみず)が沖繩の伊平屋島にあり
ました。二〇万図のときにはなかった
「ゴルフ場」「老人ホーム」が、上位に
現れました。用いた地図はリゾート法
やバブルより前のものですが、福祉は
やりの先駆として出てきたのでしよ

うい。ついでに地名を構成する文字を一つ
ずつ切り離し、全部でいくつあるかを
数えてみました。文字の全数は一五
万〇二五三で、三四一八種の文字が使
われていました。一番多かった字は
「川」で四万二四〇九ありました。以
下、町(三万三〇三四)山(三万二四
六五)田(二万五二三七)目(二万二
七四二)丁(二万一九一五)です。駅
名は八三八一ありました。ちなみに、
JRの全駅数は四五〇〇ほどだそう
です。この過程で面白かったのは、数が
大きいとパソコンが数え間違いをする
のです。そんな筈はないのですが、三
度経験しました。九九九九九九まで
かぞえて、あと一本で百万本という
ところでやり損なったりしました。ま
るで五條の橋の弁慶です。困って、デー
タを小分けにして数えさせたら、間違
えないでやってくれました。目や丁が
多いのは、縮尺が大きい地図ですので
「新宿」では間に合わず、「新宿三丁
目」「五丁目」というような表示が

ふえたためでしょう。地名としては面
白くありません。緑町、栄町、丘
のような、月並みな地名もふえていま
す。民主主義のたまものでしょうか。

地名データベース

この索引は、「よみ」による一巻が
二〇一四頁、「漢字」による二三巻が
合計五二二頁です。漢字の索引で頁
数がふえている理由は、地名の中間の
文字も検索できるよう、順送りにした
文字列を作ったためです。たとえば
「新大久保」のほか、「大久保 新」
「久保 新大」「保 新大久」が見出
となります。このために件数が約2.6倍
になりました。この結果、語尾に「峠
や「岳」のつく地名を調べるとか、どこ
でもよみから「田」の字のついた地名
を検出するというような、普通の辞書
では不可能なことができます。

この索引を作った目的は、植物の分
布地図を電算機で作ることにあります
ので、これを使って地名の分布図を作
ってみました。地名に付記されている
経緯度を集め、作図プログラムに入れ
てやればよいのです。在野の地名研究
家として有名な故・鏡味完二氏が発見
した、「沢」と「谷」をもつ地名
が東西に分かれるという現象を追試し
てみました。同氏は手作りの分布地図

を何年もかけて作ったのですが、こち
らは地名データベースとプログラムの
おかげで20分ばかりでできます。結果
は同氏の発見を裏付けるものでした。
鏡味氏の地名研究には、当時成蹊で地
理を教えておられた伊藤隆吉先生が深
くかわっておられたことを知り、不
思議なご縁を感じました。

近頃はデータベースばかりですから、
印刷物としてのこの索引よりも、電子
媒体での利用を頭に浮かべる方が多い
でしょう。実際マスコミや流通業から

あの日の時―(箱根駅伝参加裏話) どろまみれの完走

井川舜喬

箱根駅伝参加の発案は、昭和二十五
年十一月に第一回の四大学対抗戦が行
われた後で、昭和二十七年には大学の
第一期生と成られる山岸常夫、佐藤一
雄、川井祐一、佐々木忠臣の諸先輩が
「大学時代に後世に残ることを、陸上
競技部としてやろうではないか」との
発案がベースになっている。それらに
関連する細部の記録は既に昭和五十九
年六月三十日発刊の「成蹊陸上五十
年」に記録されているので、是非ご高

覧戴きたいが、ここではそれらに書か
れていない裏話を加えて見たい。

苦渋の予選会通过

起案をして学園掲示板に参加者を募
ったものの応募する選手がないまま、
出場前年の十月末には井の頭線沿いの
街道、明大前より井の頭公園間の十マ
イルの予選会が迫っていた。そこで、
取り敢えず発起人の山岸・佐藤・佐々
木の三先輩に橋本蔵先輩と私を含めて

最低基準である五人で参加するという
ことにした。しかしながら、予選会の
成績は最低基準の七十分を若干オーバ
ーするという結果に終わってしまった。
本来ならば失格と言われても仕方な
い最初の大きな壁に突き当たった。

その晩、予選会参加者全員が代々木
にあった永井監督の自宅にお邪魔して
結果を報告するとともに打開策に知恵
を絞った。結論として、当時学連委員



第28回関東大学駅伝(昭和27年1月6日)
にて第2走者村瀬選手に襷を渡す第1走
者山岸選手

をしておられた永井監督に、同じく学
連委員で且つ箱根駅伝出場校の選考委
員をしておられた紅陵大学(現拓殖大
学)の先輩に対し、出場校が十五校に
なっていない点を強調して、当校の参
加を推薦してもらおうと工作活動をお願
いすることにした。その裏には成蹊大
学が参加すれば拓殖大学はビリになら
ずに済むであろうという知恵付けがあり、
今にして思えばはしたないことに希望
を託したものだと思っている。しかし、
これが見事に功奏して目出度く出場校
となることができた。

オール成蹊の イベントとする

第二の難関はその時点で出場に必要な
選手十名の半分に相当する五人の確
保をどうするかということであった。
山岸・川井先輩が各運動部に政治的に
働きかけられた結果、「箱根駅伝はオ
ール成蹊の行事とすべきである」とい
う方向で支持が取り付けられ、特にラ
グビー部が積極的に応援の手を差し延
べてくれたお陰で、時は既に11月末で
はあったが漸くチームの形をなすこ
ろまで漕ぎ着けた。

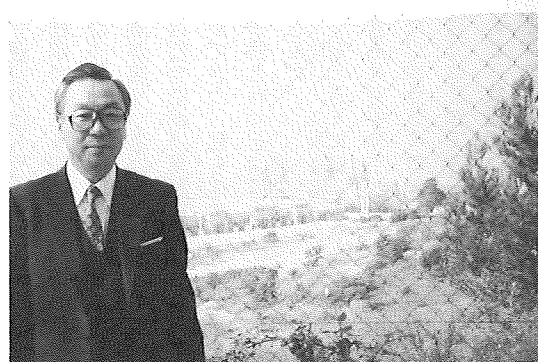
一方ではこのチーム編成をする過程
で、出場選手の氏名を主催の読売新聞
社に提出しなければならない期限がき

てしまい、急場の措置として、出場を
引受けてくれるであろうという人を十
名にして登録し、後日に変更登録する
ということでのその場を凌ぐことにした。
この処置が思い通りに進まず、競技当
日には実ランナーと新聞記載選手の名
前が食い違うという奇妙な現象が起き
るということになってしまった。戦後
間もない時で、今と違って厳しいチエ
ックが無いことが幸して事なきを得た
とでも言わねばならないであろう。

学園関係者からの 暖かい支援

第三の難関は財政問題である。マラ
ソンなんてランニングシャツとパンツ
があればよいのではないか、それにど
うしてそんなにお金がかかるのかと思
う方が多いだろうが、戦後復興間もな
い時期に繊維も上質なもの成蹊のシ
ンボルとなるユニホームを揃えなけれ
ばならないこと、また当時の箱根駅伝
としては選手の伴走車と応援車のチャ
ーターが必要となる等で、予想外な出
費が見込まれた。その上、競技が二日
にまたがるので、選手と関係者を含め
た箱根での宿泊施設を設ける費用も予
想された。

一方で、出場選手の特別強化訓練も
必要とされ、当時八王子、青梅地区等



背景はバルセロナオリンピック・スタジアム

で行われていた地区駅伝にも積極的に
参加することにした。これらの面での
出費も多額で、当時の陸上競技部の予
算では到底賄えないという状態であっ
た。この面は川井マネージャーと山岸
主将が当時ではまだ生活の苦しい諸先
輩に掛け合って寄付を募って戴いた。
しかし、そんなことでも賄い切れず選
手個人の家庭からの支出や学園父兄よ
りの目立たない暖かい支援があり、大
学よりも過分の寄付金が支給されてど
うやら切り抜けられた。特に、箱根駅
伝の当日、箱根・宮ノ下で旅館業を営
んでおられた先輩には、選手・関係者
の宿泊に関して過分の散財を掛けたと

同窓の つどい

桜祭に集いて

「桜祭いろいろ」

春先の低温、4月3日という日程、週末は雨という天気予報から、今年の桜祭は期待できないだろうと関係者はあきらめていた。ところが予想に反して前

日当りは好天に恵まれ、かつ二三日前からの高温で、一気に桜が八分咲きになったのである。さて工学部が担当した第17回桜祭の目玉は「ハイテク工房」とすべてのアトラクションを本館前の広場で行った事である。工学部の独壇場である従来からのパソコン教室は子供たちに人気があったが、学生会館二階という場所柄から、今一つ地味な



▲チビッコ天国カーレース



▲馬と仲良し



▲人気のあった怪獣

チアリーダーの演技をしたところ大変評判が良かったので、今回の全面的に外でという企画になったのであるが、準備の際に晴雨両方を考えることは大変であったろうと推察する。結果は冒頭にも述べたように花と天気と両方に恵まれテレビ朝日アナウンサー田中滋実さん(文21回)の司会もあって大成功に終わった。さらに今年から学園より近隣の家々へご招待券を配布したこともあって卒業生と同じ位車椅子のお年寄りや犬を連れた

ご家族づれなど近所の皆様の姿が目についた祭りであった。最後にこの祭りに初めて来た方々から、若者達の学園祭の雰囲気ではないかと危惧して来たが「大人の祭り」でも楽しめると言われた事が、2月3月は準備に追われて仕事にならない関係者達を、一番喜ばせたことを付け加えておきたい。

布川純子(文・52年)



▲ビリーバンバン(菅原兄)と田中滋実さん



▲本館前ステージ



▲今年も人気のチアリーダー



▶フォーセインツ



▶旧制高校賽歌

第17回 成蹊桜祭

1994.4.3.(日)



主催：成蹊大学学生会
後援：成蹊大学